

米実質金利の上昇とハイテク株

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 足元で米実質金利は上昇

FRB（米連邦準備制度理事会）の金融政策正常化の加速を背景に、米実質金利が上昇に転じつつあります。こうした動きがNASDAQ100をはじめとしたハイテク株に逆風になるとの懸念も目立ちます。パウエルFRB議長は11日に米議会上院銀行委員会が開いた指名承認公聴会で、「バランスシートの規模縮小については、早く開始し、速いペースで実行するだろう」と述べるなど、タカ派姿勢を改めて示しました。ただ、市場はすでにFRBのこうした姿勢を織り込みつつあり、11日の米債券市場では10年国債利回りは低下し、実質金利も低下するといった反応をみせました。前回の金融政策正常化局面では、実質金利が上昇基調にある中でも、ハイテク株の上昇基調が続いたこともあり、「金融引き締め加速→ハイテク株逆風」と判断するのは時期尚早かもしれません（右上図）。

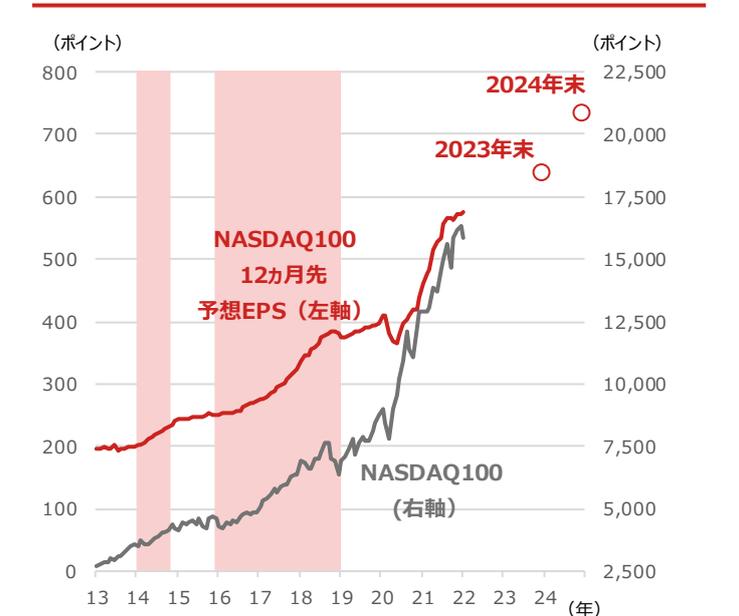
ポイント② 利益成長期待がハイテク株の支え

仮に長期金利や実質金利の上昇基調が強まり、短期的な株価への悪影響はあったとしても、中長期的な利益成長期待が不変であれば、前回の金融引き締め局面と同様に、株価の上昇基調は崩れないと考えられます。NASDAQ100の予想EPS（一株当たり利益）と株価は概ね連動しており、2024年末に向けてEPSはさらに拡大することが見込まれています（右下図）。ハイテク分野は「メタバース」や「EV（電気自動車）・自動運転」など様々な成長テーマを有していることから、企業自ら新たな需要を創出し、外部環境の影響を大きくは受けずに利益を成長させる力を持っているとみられます。ハイテク株については短期目線ではなく、中長期目線で投資していくことが肝要といえるでしょう。

NASDAQ100と米実質金利



NASDAQ100と同予想EPS



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。